

平成27年度

高齢社会 フォーラム

in 東京

挑戦するシニアが時代を開く
— 多世代が支えあう地域社会に向けて —

日時 平成27年7月31日(金)
10:00～15:30(9:30開場)

会場 イイノカンファレンスセンター
(定員:200名)

in TOKYO

主催:内閣府 後援:文部科学省、厚生労働省
協力:高齢社会NGO連携協議会(高連協)

注:日時・会場に比して 主催:内閣府 の記載文字があまりにも小さい。

開催にあたって

国連が、「高齢者の自立、自己実現、参加、ケア、尊厳」(五原則)を提唱し、全ての世代のための社会づくりを目指し、1999年を「国際高齢者年」と定めたことを機に、「高齢社会研究セミナー」を毎年開催してまいりました。現在は、名称を「高齢社会フォーラム」として、東京及び地方の都市で開催しています。

65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合を高齢化率といいますが、我が国の高齢化率は、平成26年度には26.0%となり、世界に例を見ない速度で上昇しています。65歳以上人口が年少人口(0～14歳)の2倍を超え、8人に1人が75歳以上となっている我が国においては、意欲と能力のある高齢者がその知識と経験を最大限生かし、社会の重要な支え手、担い手として活躍できる、全世代で支え合える社会を構築することが必要です。

今年度のフォーラムは、多様な分野で活動されている方々が一堂に会し、多世代が支え合う地域社会の実現に向けて、高齢者が活躍の場を更に広げ、新しい分野にも果敢に挑戦するための具体的な取組や手法についての情報交換や議論をすることとなっています。

フォーラムに参加される皆様が、自らの経験と能力を存分に発揮され、より一層活躍の場を広げる一助となれば幸いです。

平成27年7月31日

内閣府政策統括官
(共生社会政策担当)

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)は武川光夫氏。

国連五原則は「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」の順が一般的。

プログラム

平成27年度
高齡社会
フォーラム
in 東京

午前の部 会場：RoomA1・A2・A3	
9:30	受付開始
10:00	開会挨拶 内閣府
10:10	基調講演 「シニアが主役 地域創生 — 出かける、出会う、何かできる —」 樋口 恵子 高齡社会をよくする女性の会 理事長
11:10	高齡社会対策説明 内閣府高齡社会対策担当参事官
11:30	休憩(60分)
午後の部 (会場:分科会別)	
12:30	分科会
第1 分科会 会場 ROOM A1・A2・A3	高齡者(シニア)が核となる 地域創生に向けて コーディネーター 川瀬 健介 高齡社会NGO連携協議会 理事 NPO法人 生活・福祉環境づくり21 参与
第2 分科会 会場 ROOM B3	失敗しないセカンドキャリア デビュー ～人生二期作・二毛作 コーディネーター 松田 智生 株式会社 三菱総合研究所 プラチナ社会研究センター 主席研究員・チーフプロデューサー
第3 分科会 会場 ROOM C	次世代を育むジジと ババの力 コーディネーター 澤岡 詩野 公益財団法人 ダイア高齡社会研究財団 主任研究員

15:30 閉会(分科会終了)

午前には樋口恵子氏の基調講演。午後は例年のように3分科会に分かれて意見交換がおこなわれた。第2分科会では人生二期作・二毛作のセカンドキャリアの実体験が語られた。

開催挨拶

ROOM : A1・A2・A3

主催挨拶

内閣府大臣官房審議官

小野田 壮

基調講演

「シニアが主役 地域創生 — 出かける、出会う、何かできる —」

樋口 恵子

高齢社会をよくなる女性の会 理事長



プロフィール

評論家。高齢社会NGO連携協議会共同代表。高齢社会をよくなる女性の会理事長。東京家政大学名誉教授・同大学女性未来研究所長。社会保障審議会、男女共同参画会議民間議員等を歴任。著書は、「祖母力」、「女、一生の働き方」、「私の古い構え」、「人生100年女と男の花ごよみ」、「人生100年時代への船出」、「おひとりシニアのよろず人生相談」等。

高齢化社会対策説明

内閣府高齢社会対策担当参事官

藤澤 美穂

- 高齢化の状況
- 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向
- 高齢者の地域社会への参加に関する意識
- 高齢社会対策の実施の状況

注：藤澤美穂参事官（高齢社会対策担当）が「高齢社会対策説明」に用いた「高齢社会白書」は別項で取り上げています。樋口恵子氏の講演の一部をこのあとにご紹介しています。

第1分科会

ROOM : A1・A2・A3

「高齢者(シニア)が核となる地域創生に向けて」

- 皆で支えあう“いきいき高齢社会”づくりを高齢者(シニア)がリードしていく仕組みとは？
- 高齢者の活動は健康寿命の延伸に効果あり!? また、期待される“団塊の世代”の意識とは？



コーディネーター

川瀬 健介

高齢社会NGO連携協議会 理事
NPO法人 生活・福祉環境づくり21 参与

パネリスト

- 鈴木 隆雄** 国立長寿医療研究センター 理事長(総長) 特任補佐
桜美林大学 加齢・発達研究所長 大学院教授
「健康寿命」、「地域包括システムの考え方」などについて研究を
続けている。
- 澤登 信子** 株式会社ライフカルチャーセンター 代表取締役
長年のご経験から、高齢者が地域に軟着陸できる仕組み作りなどで
活躍中。
- 鷲尾 公子** 認定NPO法人ぐるーぷ藤 理事長
福祉豊かな藤沢のまちづくりを目指して長年活動。
様々な活動事例を紹介。

MEMO

第2分科会

ROOM : B3

「失敗しないセカンドキャリアデビュー」～人生二期作・二毛作

- シニアが輝くための「失敗しない地域デビュー心得」とは？
- 同じ分野で輝く人生二期作・違う分野で輝く人生二毛作とは？



コーディネーター

松田 智生

株式会社 三菱総合研究所
プラチナ社会研究センター
主席研究員・チーフプロデューサー

パネリスト

白井 清

情報機器メーカーでアジア・欧州の海外駐在を経て
志事創業社をシニア起業し独立。

中村 昌子

航空会社早期退職後、復興支援活動やシニア変身講座などを企画、
学び直しと再チャレンジ中の現役大学院生。

栗原 邦夫

飲料会社の執行役員から早期退職。
長崎国際大学の地域連携室長として活動開始。

黒笹 慈幾

出版会社でコミック「釣りバカ日誌」の編集担当。
県庁や地元企業のアドバイザーとして活躍中。

MEMO

第3分科会

ROOM : C

「次世代を育むジジとバアバの力」

- 子どもの未来を創りあげる為に地域の大人(シニア)に期待される役割とは?
- 地域全体のジジとバアバとして、経験や得意を生かして孫育てに取り組むには?



コーディネーター

澤岡 詩野

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員

パネリスト

朝山 あつこ 特定非営利活動法人 キーパーソン21 代表理事
子どもの貧困を解消すべく、シニアの力を活用した学習支援や居場所づくりに取り組む。

桑原 静 シゴトラボ合同会社／BABAラボ 代表
バアバの経験や視点を生かした孫育てグッズの開発、孫育て講座の開催などに取り組む。

竹内 俊晴 わくわく農園 チーム・グランパ 代表
農に関心を持つシニアがわくわく農園の活動を介し、地元の小学生の農育・食育に取り組む。

MEMO

平成27年度高齢社会フォーラム in 東京

平成27年7月31日（金）

基調講演

「シニアが主役 地域創生 一出かける、出会う、何かできる」

樋口恵子 高齢社会をよくする女性の会 理事長



みなさまお早うございます。

昨年もここで話をさせていただきましたけれど、毎年この内閣府によるフォーラムが、日本中の高齢者のこの1年の活動の集積というようなようすを呈して参りまして、ことしもまた全国津々浦々からお出でくださいました皆さま方と経験を交流しあえるひとつの出会いでございまして、このわたしのサブタイトル「**出かける、出会う、何かできる**」これを高齢者の3DDと呼びます。人間は社会的動物でありまして、どこかに出かけてだれかと出会う。そこで社会的人間関係が結ばれることをとおして、何かができるのでありまして、「出かける、出会う、何かできる」という3D主義をますます広げていきたいと思っております。

さて、日本は年々熱くなっているのじゃないですか。これと同じように年々高齢化はすすみ、日本全体をじりじりと焼きつくすかのように高齢化の度合いを深めております。わたくしたちはその危機を認識しつつそれに対応をしていく。

きのうちちょっとうれしいニュースがありました。**平均寿命**がまた伸びておりました。

昨年ようやく80歳の大台を越えてくれた男性諸兄がことしは80・50と、四捨五入すれば81に届くところまでまいりました。みなさんおめでとう。と同時に皆さまの

ご節制のご活動に心から敬意を表します。

女性のほうは86.83に。東日本大震災の年に世界一の座を譲ったこともございましたけれど、また世界一に復活しております。世界3位の男性と両方合わせてすれすれで世界一ではあるまいか。オリンピックにもし「高齢化」という種目があれば、日本は労せずして金メダル3つ4つくらいころがりこんでくる。

そこを生きるわたしたちは、「人生90年」といわれるこの**長寿社会**を生きる初代として、金メダルにふさわしい生き方古い方をしなければ。もちろんすでに105、106歳の方もいらっしゃいますけれど、この方々は同世代のほんの少数であり、60、70のころに「人生90年社会を生きるんだ」という自覚はしていなかったと思います。

いまきょうここにお集まりの方は60歳以上が多いようでございますけれど、実はこのことは若い人にも全部に共通するのです。40代にはご自身の人生100年がございます。10代の少年少女にはこれから90年生きるかもしれない人生100年がございます。そして虹色のもやのかなたにこれから生まれる人びとの人生100年があるのでございます。

わたしたちは「**人生100年**」のモデルをつくっていく幸か不幸か初代という光栄を担ってしまいました。人間さまざまな選択ができますが、生まれる時と場所は選ぶことができません。幸いにも幸いにも戦争が終わって平和が訪れた中で物ごころつき、あるいは生まれました。そして**戦後70年**、ここにいらっしゃるほとんどすべての方々は、「戦争を知らない大人たち」として70年を生きてきたわけでございます。

わたしは当年、83歳になりますが、13歳までは「平和を知らない子どもたち」世代であります。平和のなかに育つということ。自分の未来を画くということ。わたくしなど女でしたからそれほど深刻ではありませんでしたけれど、わたしと同級生の中学1年生であった少年たちで自覚ある者は、「おれの人生は二十歳でおわりかなあ」というていたことが思い出されます。

皆さんご存じの山形が生んだ作家、藤澤周平氏は昭和2年生まれ。ですから18歳、次の徴兵検査で戦場に引き出されるという年齢で終戦になりました。彼の随筆のなかに、終戦になったとき、もう他人に預けてしまっただけで自分のものでなかった命が急にもどってきて、これからの命はおまえの自由に使ってよろしい。さてどうしていいか、しばらくとまどったというエピソードがたいへん強烈に身にしみる今日この頃でございます。

わたしたち**平和の証**として、この人生90年、100年をしっかりと守りつづけ、いま**戦後70年**を迎えております。自由裁量、自分で選びとった人生が画ける、「命が主人公である」ということが、平和の代名詞なのだと思っております。しかし、人間それぞれに、生まれてきた時代に課せられた歴史からの宿題がございます。

われわれの世代は、この平和の証である長寿と長寿の基盤である一定の豊かさをつくり出しました。それは日本政府にも国民にもたいへんな貢献であり、世界一の長寿に結びつく医療保険をつくり年金をつくり介護保険までつくり、その土台がいま揺らいでい

ますけれど、日本人の健康を支え、長寿を支えたものは、なんといっても平和と一定の豊かさであり、それを築いたのもわたしたちの世代でございます。

その結果である長寿、**世界一の長寿**がもたらすさまざまな問題の解決のために、社会全体を「人生65年型」から「**人生90年型**」へ変えようという政府の閣議決定で定められたのが、2012年版の「**高齢社会対策大綱**」でございます。

本日の開催の協力団体である高連協、わたくしが堀田力先生とともに代表をつとめる高齢社会NGO連携協議会は、そのような高齢者が90歳から100まで役立てるような社会システムをつくりなおすよう提言を申し上げまして、この「高齢社会対策大綱」のなかにも採り入れられております。

親たちがつくり、先祖がつくった人生の標準は、せいぜい50年から65年くらいまででございました。・・

注：以下、次号でご紹介いたします。